

平成 26 年度第 1 回人生二毛作推進県民会議 意見概要

◆テーマ A「シニア層の子ども・学校支援について」

地域の学校は地域で守るためにシニアには何ができるか

○学校行事への参加

- ・あいさつ運動や登下校時の見守りや特別支援学級等での見守り。
- ・放課後の学童保育、児童クラブに協力する(講師として文化の伝達、知恵の伝達等)。
- ・親への支援(母親の講習などの学びや憩いの時間の託児支援や働く親の手助け、PTA 講習会講師等)。

○昔の遊びの伝授

- ・得意分野(紙ヒコーキ、竹馬、料理等)を子ども達に教える。

○部活の顧問

新しい自分の発見

- ・輝いた子どもを見ればシニアもより輝く。
- ・子どもから信頼される自分。互いに輝く。
- ・世代を超えた仲間との交流。
- ・自分が楽しいシニアの居場所。
- ・シニア世代からすると生きがいであり、子どもからすると多くの知識、人とのふれあい。

地域で顔の見える関係

- ・学童保育への協力。
- ・行き帰りの見守り。
- ・犯罪の防止。
- ・日常生活にシニアの力。

シニア層が子ども・学校支援をするために必要なこと

○学校からの要望のまとめ役

- ・学校からの要望を集約し、シニア層へ伝える役としても、各地域にコーディネーターが必要。

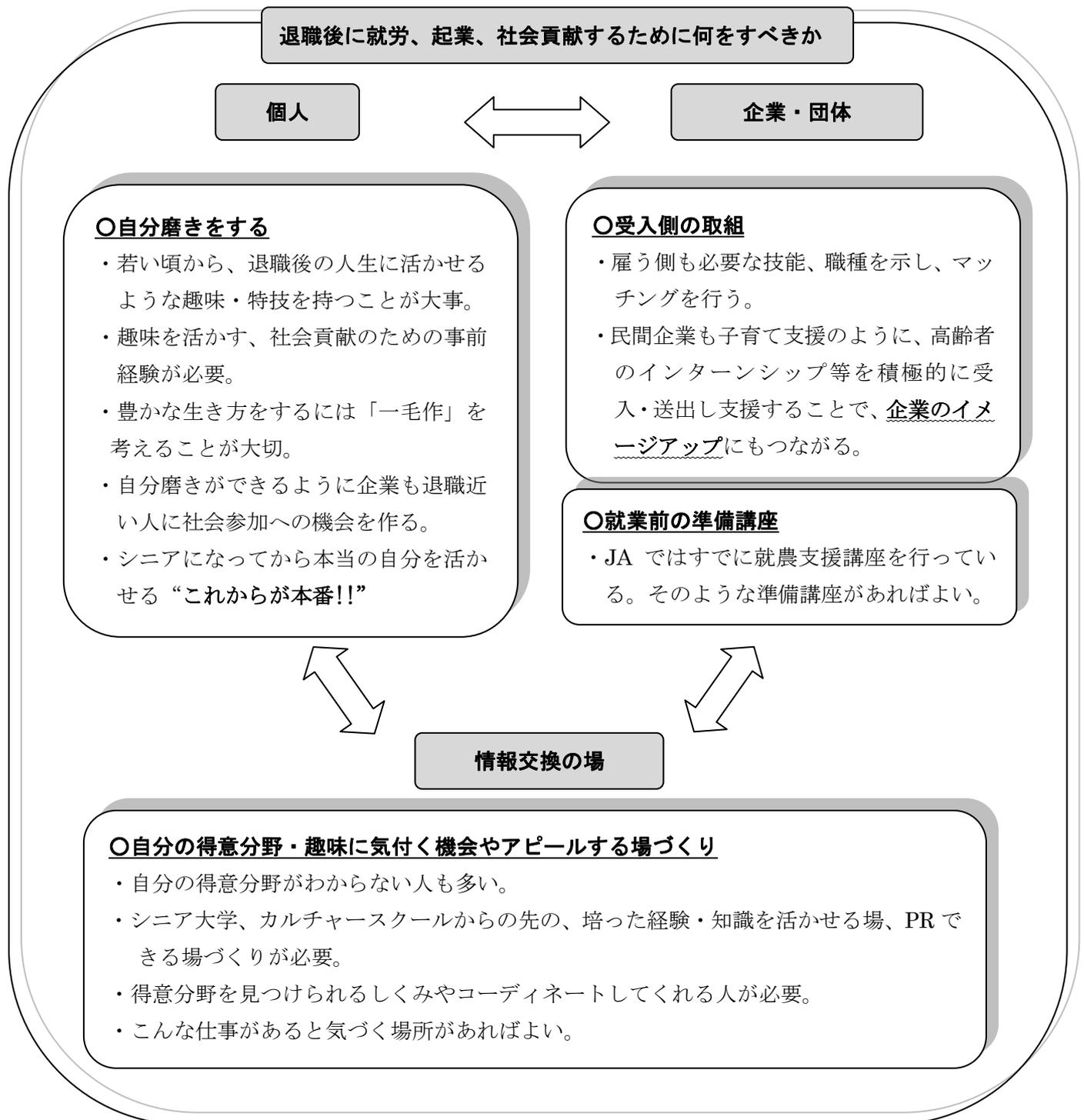
○学校の認識を変える

- ・シニア層が学校に参入することに対して変なとらえ方をされないように、学校側にも理解を求めることが大切。

★上記テーマ(シニア層の子ども・学校支援)について最も共感した事柄、意見等

- 世代を超えた仲間との交流。
- クラブ活動、放課後活動への支援。
- 登下校時の見守り(趣味や特技がなくても具体的にできそうな貢献)。
- 子どもの山歩き(学校登山)への支援。

◆テーマB「退職前のインターンシップ・人材バンクについて」



★上記テーマ(退職前のインターンシップ・人材バンク)について最も共感した事柄、意見等

- きっかけづくり。自分の力、得意分野に気づく場所づくり。「これからが本番です」。
- コーディネートする組織の仕組みづくり。
- 退職後を考えてくれるような職場の理解が必要。
- SNS(交流サイト)。仲間づくりが1番のキッカケになる。
- 「豊かな生き方」を考えるには、一毛作から考えることが大切。

◆テーマC「シニア層の地域づくりへの参画について」

地域への参画についての現状

- ・地域に出るきっかけが必要。シニアになってから地域とつながるのはなかなか難しいので現役時代からそういったつながりをつくる必要もある。
- ・退職後の男性の地域参加が少ない。
- ・仕事をしている間はほとんど地域との関わりがないため、地域へ参加する方法がわからない。
- ・地域に出る(集まる)きっかけづくりが必要。

地域に出る(集まる)きっかけとしてどのようなものがあるか

地域の同窓会

- ・ゆるい集まりじゃないと人は集まらない。
- ・集まるきっかけとして「地域の同窓会」(例えば、60歳の同窓会など)を開催して、公民館行事のように強制的に集まるようにする。さらにそこに若者に入ってもらおうとよい。
- ・いろんな知識があつまる、地域の同窓会が人材バンクをつくるきっかけになるといい。

居酒屋に行こう！

- ・「退職したら、背広と肩書きを脱ぎ捨てよう。」
- ・町内の居酒屋から始まる地域づくり「居酒屋に行こう！」
- ・お酒を飲むと色々なアイデア出る。また居酒屋は世代を超えた人が集まってくる。垣根をとって意見を出し合える。

世代を超えた集まり・イベント

- ・世代を超えた地域のイベント、祭りが集まるきっかけとなる。その場所としては、色々な講座がある公民館がよい。また公民館では子育てサロン、ミニサロン等が開かれているため、いろんな世代に伝えることができる。
- ・食べものづくりは人が集まりやすい。
- ・おやき、そば打ちなどシニアが先生になって教える講座を行えば、自信にもつながる。

★上記テーマ(シニア層の地域づくりへの参画)について最も共感した事柄、意見等

○「上着(肩書、看板)を脱ぎ捨てて、居酒屋に行こう」

- ・キャッチコピーとして1番ずっと入ってくる。
- ・単身赴任だと、そういうところから入っていかざるを得ない。

○世代を超えた、お祭り。

- ・地域を盛り上げるひとつの方法。世代を超えてということが地域づくりに非常に関わってくる。